



Artist:
KaHi

タカダ ミヨ

高田 美夜

被検体番号： 0 3 4

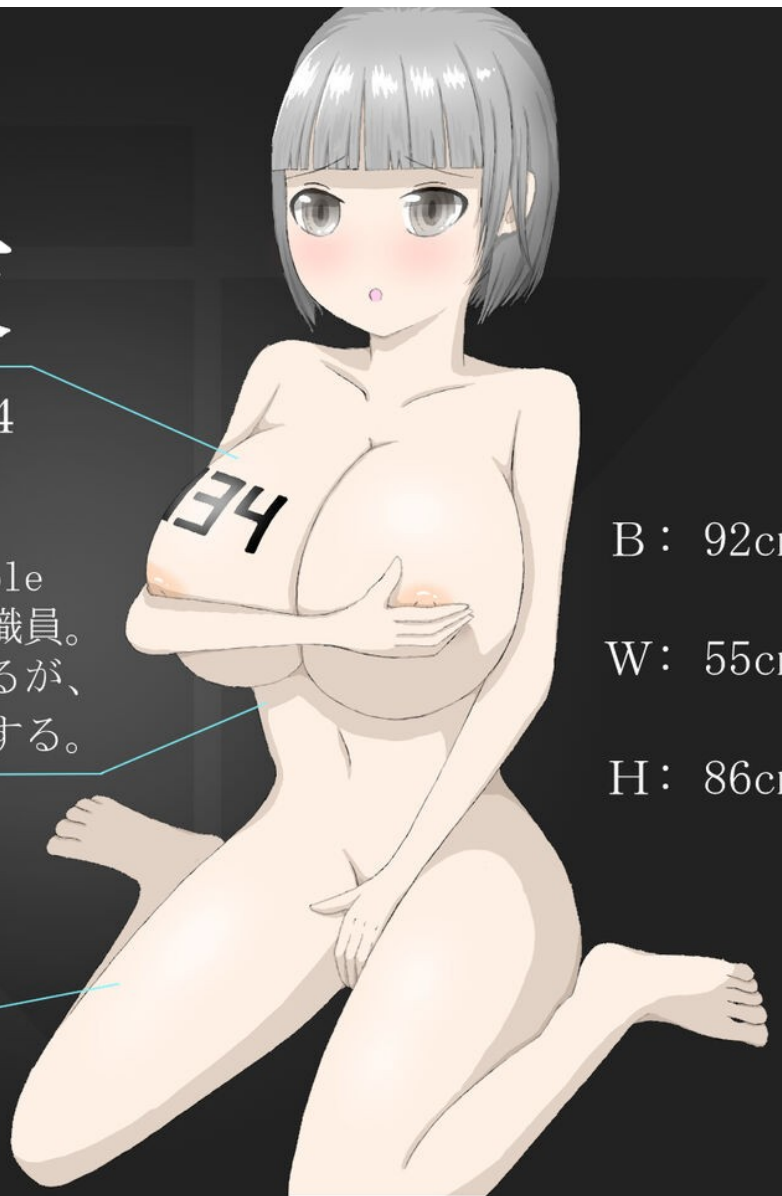
異生物研究所UCRI (Unidentifiable Creatures Research Institution)の職員。
普段は研究者として同所に勤めているが、
ときどき被検体として実験にも参加する。

身長： 165cm 体重： 53kg

B： 92cm

W： 55cm

H： 86cm



Case01: 吸液ヒル

通常のヒルと違い、吸液ヒルは血液ではなく母乳を吸い取る。その体液には乳腺を刺激して性感を高める効果があり、吸液ヒルに襲われた者は、強い快感に体の自由を奪われたまま母乳を吸い尽くされる。

研究所内の標本数が不足しているので、今回の実験では一定量の食事を取らせ、繁殖を促したい。



被検体の体液を定期的に与えてやれば、
研究所内の個体数を維持できるでしょう。

吸液ヒルを投入しました。

● REC

吸液ヒルの体液には乳腺を刺激する効果がありますから、直に被検体は射乳が止まらなくなるでしょう。

034番に一匹食いつきましたね。

● REC

彼女にはこのまま栄養を供給してもらおうとしましょう。



034番から母乳が出始めました。

ドビュッ

● REC

個体数を増加させ、維持することが目的ですから、
このまま最後の一滴まで絞らせてやりましょう。

はぁ
はぁ

034番に大量の個体が
集まってきました。

ガジュル

ゴクッ
ゴクッ

レロオ

● REC

Case02: 乳辱甲虫

乳辱甲虫は変異の過程で腹部の甲殻を失ったが、代わりにその部位の高い伸縮/柔軟性を獲得した。これにより、大量の卵を腹部に蓄えたまま巨大な産卵管を格納できるようになった。このため産卵期の乳辱甲虫の粘糸に捕らわれた者は、たとえ迅速な救助が行われた場合でも、体内に無数の卵を産み付けられた状態で発見される。

今回の実験では乳辱甲虫の産卵から幼虫の孵化までの過程を観察したい。



034番が乳辱甲虫の巣の中に入りました。

上質な苗床になってくれるといいですが。

● REC



甲虫が乳腺と膣内に産卵管を挿入しました。

もうじき産卵が始まるでしょう。



● REC



甲虫の産卵が始まりました。

このまま孵化まで
待ちましょう。

シロデ

ドブツッ

● REC



幼虫が孵化しました。身をよじらせながら乳腺内から這い出てきています。

甲虫はまだ産卵できるようです。被検体が力尽きるまで、このまま観察を続けましょう。



● REC

Case03: 変種ラフレシア

動物的機能も兼ね備える変種ラフレシアは、ほ乳類の母乳を搾り取り、栄養源とすることができる。無数に生えている蔦のうちの数本は搾乳に特化しており、舌状の器官で獲物の乳頭を弄び射乳を促す。さらにその体液には乳腺を刺激する効果があり、変種ラフレシアに捕らわれた者は母乳が尽き果てるまで乳房を吸われ続けることになる。

今回の実験では変種ラフレシアの搾乳能力を確かめたい。



変種ラフレッシュは乳房を刺激して
母乳を搾り取ります。

早速、034番に興味を
示しているようです。

● REC



変種ラフレシアの体液には射乳を促進させる効果があります。

直に母乳が溢れ出てくるでしょう。

● REC



034番の乳頭から母乳が
噴き出していますね。

搾乳触手はしっかりと乳房を
咥え込んでいます。しばらくは
離してくれないでしょう。

● REC



034番の射乳がひとまず収まったようですね。

今回搾り取った分を吸収し終われば、
変種ラフレシアは搾乳を再開するでしょう。
034番の母乳を吸い尽くすまで、このまま
観察を続けましょう。

● REC

UCRI: Official Document

タカダ ミヨ
高田 美夜

異生物研究所UCRI(Unidentifiable
Creatures Research Insutitution)の職員。
普段は研究者として同所に勤めているが、
ときどき被験者として実験にも参加する。

身長: 165cm 体重: 53kg
BWH: 92/55/86cm



CASE-01: サキュバス



事前にふたなり化させていますが、
彼女らは気に入ってくれるでしょうか。





すごい勢いでシゴいてますね♥

これじゃ10秒ももたない
でしょう♥



でもまだまだ終わりじゃ
ありませんよ♥

一度目の絶頂です♥

ビュッ
ビュッ
ビュッ

んっ



—この模様は？

「淫紋」ですね。

こうやってお気に入りの「おもちゃ」に
マーキングするんです♥



二回戦突入ですね♥

「淫紋」が光ってるので、きっと
感度も何倍にもなっているはずですよ♥

かぽっ♡



我慢しないでいいのにー♥

なんだか切ない顔してますね♥



あッ

うわっ♥派手にイきましたね♥

二回目なのにすごい量です♥

ド
ュ
ル
ッ



このままだと壊されて
しまいそうですから♥

――そろそろ回収しましょうか。

CASE-02: ゴミムシダマシ(変異体)



今ここに見えるのは
ゴムシダマシの変異体です。

幼虫はミルワームという
名前で知られていますね



通常、幼虫が孵化してすぐに食事が
できるよう、苗床には野菜などの
栄養のあるものを置いておくんです。

でも栄養たっぷりの
母乳があるなら、
その必要はありません♥

ゴミムシダマシの卵がズブズブと
乳腺の中を進んでいますね♥



産卵が終わりました。

元気な子が生まれてくるのを
祈りましょう♥





幼虫が孵化して、乳腺から
這い出てきました♥

子供を産むときはふつう痛みを
感じるものですがー

彼女は気持ちよさそうに
してますね♥

お腹を空かせた幼虫が早速
乳首に吸い付いていますね♥





ゴクゴクと美味しそうに
母乳を飲んでます♥

大きく育つまでこのまま
吸わせておきましょう♥

CASE-03: 触手椅子



こちらは触手椅子ですね。

いつからこんなものが存在したのかわかりませんが、快楽を与える拷問器具として使われていたようです。



搾乳触手が乳首を咥え込みました♥

ん♡

がぶっ♡

こんな見た目ですけど
生き物ですから、
栄養は必要ですよ♥



被験者から母乳が溢れてきました♥

触手ちゃんが美味しそうに
母乳を吸ってますね♥

ゴクン

ゴクン



あら？搾乳が収まりましたね。

何かが気に入くないような
様子です。



別の触手が飛び出てきました。

そういえば...触手椅子の体液には
被縛者を膨乳化させる効果
があったような気がします。



この緑色の体液がそうですね♥

効果はすぐに表れるはずですよ♥



卑猥な乳房が大きく膨れ上がりました♥

早くしゃぶってくれと言わんばかりに、
乳首から母乳がだらしなく垂れて
きていますね♥



快樂の飢えに応えるように、
搾乳触手が食いつきました♥

これからたっぷりと母乳を
搾り取るつもりですね♥



あっ♥乳首を責められてしまったようです♥

それにしても派手にイきましたねー♥



たっぷり母乳を搾り
取られたみたいです♥

そろそろ彼女の体力も限界でしょう。
回収作業を開始します。

CASE-04: ホシムシ(変異体)

ホシムシの変異体を大量に捕獲しました。
通常のホシムシは大きくても50cmほどですが、
変異体はそれよりもさらに大きいようです。

吻(ふん)と呼ばれる器官が体内から
出てきていますね。通常は捕食に
使われる器官なのですが――



この子たちは乳腺をいじめるのに
使用するんです♥





吻をバイブのように振動させて
乳腺を刺激していますね♥

あぁっ♡

こうすると乳首の感度が高まって
母乳も出やすくなるんですよ♥

徹底的にいじめられた乳首から
母乳が溢れてきています♥

こうなったら、残さず
母乳を吸い上げてやらないと
逆に可哀想ですよ♥



両方の乳首をホシムシたちが
咥え込みました♥

いよいよ食事の時間です♥





あっ♥乳首を吸いながら乳腺も
責めちゃうみたいです♥

見かけによらず
器用ですね♥

ズリユ♥

乳首の感度は限界まで上がっていますから、
いま彼女はとてつもない快感を感じているはずです♥

ああっ♡

ググググ

ググググ



すごい♥母乳がこんなにたくさん♥

これならしばらく給餌の必要はなさそうです♥



CASE-05: カエル(変異体)



こちらはカエルの変異体
ですね。おそらく、元は
ウシガエルだったのでは
ないでしょうか。

ちょうど034番との交尾が
始まるところです。



膣内にカエルの生殖器が
挿入されました♥

通常のカエルには、こういった
人間の陰茎のような生殖器は
ついていないのですが...

ズッ



まあ変異体ですし、
どうでもいいですね♥

それにしても、激しい
腰振りですね♥



一度目の射精です♥

被験者も同時に
いったようですね♥



母乳が溢れてきていますね♥

中出しされて、ママの体になってしまったようです♥

ドヨ

どろ♡

二回戦が始まりました♥





狂ったように腰を
振ってますね♥

蛙卵でぐちゃぐちゃになった膣が
かき回されています♥



二度目の絶頂です♥

また母乳が噴き出していますね♥

ぽっ

びしょ

ぽっ

びしょ

ぐしょ
ぐしょ

もう卵が孵化したようです。

幼体が乳首に吸い付いてますね♥

せっかくですから、しばらくこのまま
母乳を飲ませてあげましょうか♥



触手ラボの
日常 その2

Artist: Kahi





触ラボ -PART3-

今日は野外調査の日だ。噂によれば、
こうして無防備な状態で寝ていると
その生物は姿を現すらしい。



音もなく忍び寄ってきたのは寄生バエだった。



この種の一番の特徴は、乳管内に卵を産み付けるところだ。

寄生バエの産卵管が乳管に挿入される。



産卵は間もなく始まるだろう。

数十個もの卵が乳管内になだれ込む。



痛みはなく、鋭い快感が
乳頭から脳髄へ伝わってきた。

寄生バエの卵は数分も経たないうちに孵化する。

ズ
ー
シュ

んっ



その後、刺激を受けた乳腺から
溢れ出る母乳をすすり成長する。

孵化した幼虫は急成長し、乳首から
直接母乳を吸い出し始めた。

ちゅっ
ちゅっ

はぁ♡

はぁ♡

しゅる♡

この状態になってしまうと、
たとえ目を覚ましていたとしても
抵抗するのは難しい。



乳管内の寄生虫を取り除かなければ。

岩陰に潜んでいたヒモムシに
胸を近づけると、母乳の匂いに
誘われてヒモムシが飛び出してきた。



はぁ♡
はぁ♡

ヒモムシはすぐに乳首に吸い付いた。

このまま母乳を吸わせてやれば、
寄生虫を除去できるだろう。





母乳と寄生虫で膨れ上がっていた胸は
勢いよく甘美の液体を吐き出した。

はぁ♡

はぁ♡

だが寄生虫はまだ乳管内に
残っている。



こちらの意図を汲み取ったのか、
再びヒモムシたちが乳首に吸い付いた。

ちゅぽ♡

ぐっ♡

ちゅぽ♡

感度の上がった乳首から伝わる
強い快感に思考を奪われる。







寄生虫の除去には
成功した。

じゅるる♡

はぁ♡

はぁ♡

ちゅるる♡
ちゅるる♡

だがこのヒモムシたちを
満足させるまではしばらく
動けないだろう。



洞窟内で道に迷ってしまった。ふらふらと出口を探していると、すねの辺りに鋭い痛みが走った。

その直後、下半身の感覚を失い、その場に倒れてしまった
これは神経毒だ。足元にはイツギンチャクに似た生物がいた。



長く伸びた触手が外陰部を押し広げ、人間の体の最も脆弱で最も敏感な部分を露わにする。

ぐにゅ♡

初めて目にする生物だったが、本能的にわかった。この生物はこれから私を凌辱するのだ。

先端部分に開口部のある細長い触手が
陰核を強く吸い上げる。





今度は、おそらくは生殖器である部位を
露わにし、こちらに見せつけてきた。

これから私を弄び、凌辱するという
意思表示だろう。



太く弾力のある生殖器が膣内の奥深くに
挿入される。

んぐっ♡

ずいっ♡

リング状の“ひだ”が何度も膣壁に引っかかり、その度に
感じられる強烈な快感に私は身をよじらせた。

生殖器のピストン運動はどんどん激しくなった。







その生物が白濁液を吐き出すとともに、
私も絶頂を迎えた。

下半身はまだ動かない。私がこの状況から
脱出できるようになるまでこの凌辱行為は
続くだろう。



獲物を待ち伏せする
生物は擬態を好む。

しかし、沼地一帯が吸液ヒルの群れ
である例は極めて珍しいと言えるだろう。



2匹のヒルが乳首の位置まで
這い上がってきた。

ぐにっ♡

ぐにゅ♡

どうやらこのヒルたちの
好物は母乳のようだ。



乳管に何か細長い
器官が挿入される。

その直後、ヒルの体液の一部が
乳首の先から注ぎ込まれるのを感じた。

乳首がじんと熱くなり、
母乳が溢れだす。

はめ♡

はあ♡

とろ♡

とろ♡



下準備を終えたヒルたちは
大きく口を開いた。





乳首に吸い付いたヒルたちが同時に母乳を飲み始める。

んっ♡

ちゅ。♡
(3)

ちゅ。♡
(3)

乳首の感度は極限まで高まっていた。
ヒルたちが母乳を吸い出す度に私は大きく身をよじらせた。



私の抵抗の意志に反して、
どくどくと母乳が溢れ出る。

んぐっ♡

ぢゅっ♡
ぢゅっ♡
ぢゅっ♡

ぢゅっ♡
ぢゅっ♡
ぢゅっ♡

しかし、ヒルたちはそれでも足りないと言わんばかりにさらに強く2つの乳首をしゃぶり始めた。



腹を空かせた他のヒルたちも
集まってきた。

はめ♡

はあ♡

ごく♡

ごく♡

ごく♡

ごく♡

私にはもう抵抗する気力は残っていない。ヒルたちの
思うままに乳首を凌辱され、最後の一滴まで母乳が
搾り出されるのをただ待つだけだ。



ヒルの群れから私を
助け出してくれたのは
サキュバスたちだった。

私が無事に帰還するのを
手伝ってくれるそうさ。

だがどうやら、私はその対価を
支払わなくてはならないらしい。



彼女らにとある液体を
飲むよう促された。

体の変化を見て、その液体が
何だったのかすぐにわかった。

むくっ
♡

これはふたなり化の秘薬だ。



彼女らが最初に取り出したのは
数匹の小さなミミズだった。

ミミズは陰茎の上を這いまわり、
敏感な部分を愛撫してきた。



1匹のミミズが尿管に
侵入してきた。

不思議と痛みはなく、ミミズが尿管内で
体をくねらせるたびに強い快感が私を襲った。



遅れて姿を現したのは
彼女らのペットだった。

このペットの給餌を終えることが私を
解放する条件だと彼女らに伝えられた。



ペットの大きな舌が陰茎を
べろりと舐め上げる。

れろお
❤



そいつは私の陰茎を
しばらく舐めまわした後、
今度はそれを咥え込んだ。

龟头を強く吸引される快感で
私の体は大きく跳ねた。



ペットが陰茎を咥え込んだまま
激しい往復運動をし始める。

唾液に覆われた舌と内部を動き回るミミズは複雑なリズムで
私の陰茎を刺激し、かつてないほどの快楽を生み出した。





そして私は絶頂を迎えた。

はあ♡

はあ♡

だがペットが満足している
ようには見えない。

えろ♡

解放の条件を満たすまで
私の体は耐えられるのだろうか。